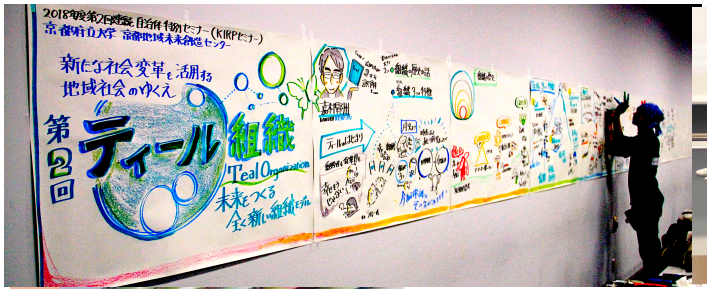
Kyoto Institute for Regional Prospects

KIRP NEWS LETTER 10

2019 VOL



報告

セミナー開催報告

9/27第1回「車の自動運転・シェアリングは地域をどう変えていくか」

第1回セミナーは、車の自動運転、シェアリングの進展が、今後の地域社会にどのような影響を及ぼすのかについて議論しました。

まず基調講演で京都大学のヤンディック・シュマッカー准教授から国際的に急速に進展しつつある自動運転の動向と今後の自動運転進展のメリット、ディメリット等の課題を話して頂きました。

次に公益財団法人豊田都市交通研究所の安藤良輔研究部長からも、具体的に地域レベルで進められている実証実験などを中心に紹介して頂きました。そして地域で今後どのようなことが起き、何が課題になるかを示して頂きました。

最後に事例報告として、京丹後市のNPO法人「気張る！ふるさと丹後町」の東恒好広報担当理事より、Uberシステムを活用した地域の「ささえ合い交通」（中山間地域におけるシェアリングの実験状況）について報告頂きました。その後、会場からの質問を頂き、京都府内でぜひ実証実験をして欲しいとか、自動運転とこれまでの運転が混在している際の事故の問題や、都市内での物流における自動運転トラックの荷捌き場の確保、Uberが世界中で広がりを見せているのに、日本でなぜ広がらないのかなどの課題が活発に議論されました。

11/15第2回「ティール組織～未来をつくる全く新しい組織モデル」

11月15日（木）、「「ティール組織」～未来をつくる全く新しい組織モデル～」をテーマに、第2回目のセミナーを開催しました。基調講演として、嘉村 賢州東京工業大学リーダーシップ教育院特任准教授から、フレデリック・ラルーが執筆した『ティール組織』を基に、直近の新しい解釈も加えティール組織についての説明がありました。

これまでの人類の組織の歴史には、5つの組織形態の進化がみられ、現在最終の形態としてセルフマネジメント、全体性、進化的目的を特徴とし、信頼で結びつき、指示命令系統がなくても各自が判断して動くティール組織の段階にきているということで、その成功事例として、オランダの非営利在宅ケア組織ビュートゾルフについての紹介がありました。

また、岩﨑 仁志（株）ヒューマンフォーラム代表取締役社長からの事例報告の後、参加者に小グループに分かれていただき、セミナーを聞いての感想や実際どのように導入していけるかなどについてのワークショップも行ったところです。

KIRPについて

京都地域未来創造センター（KIRP）は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel ：075-703-5319
Fax：075-703-4979
mail：kirpinfo@kpu.ac.jp
HP：http://www.kpu.ac.jp/

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
「稲盛記念会館」１階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS

【受託研究】KIRPが取り組み中の調査・研究の動き

報告

京都府市町村振興協会「海外行政調査研究プログラム研修業務（シンガポール）」実施

2018年度はシンガポールの様々な政策を学びに行きました。府下7市町村から9名の自治体職員が参加し、KIRPからも青山副センター長、鈴木上席研究員が参加しました。

訪問先は、「自治体国際化協会（クレア）シンガポール事務所」を皮切りに、建国（1965年）以来、精力的な都市整備を進めてきている「都市再開発庁（URA）」、多民族国家の人口融和策、多文化共生社会政策やコミュニティ政策を進める「シンガポール政府人口及び人材部局(NPTD)」やコミュニティクラブ、さらにはロードプライシングや公共交通機関など都心の交通コントロールを行う「シンガポール陸上交通庁（LTA）」、観光の人材育成を行う「シンガポールホテル協会（SHA）」、そして世界に名を知られるIR（統合型リゾート）「マリーナ・ベイ・サンズ」など多様な組織団体を訪問し、多くの知見を得たとともに、シンガポールの迫力ある政策パワーを感じてきました。

【開催報告】桜楓講座

報告

桜楓講座（秋の部）を開催しました

公開講座「桜楓講座（秋の部）」を11月4日（日）と17日（土）に開催しました。

11月4日は「大震災と宗教ー鯰絵と「社会参加する仏教」ー」と題して、文学部・川瀬貴也准教授による講演が行われました。当日は約90名のみなさまに受講いただき、川瀬准教授からは、災害の宗教的な意味づけから、現代社会で期待される宗教の社会的役割などについての解説がありました。特に、江戸時代の安政大地震の直後に流行した「鯰絵」については、多数紹介し、鯰絵を通じて、当時の日本人の宗教的心情を考察する機会となりました。

11月17日は「ヘルシーエイジングのすすめー若い頃の食生活が老後を決める！」と題して、生命環境科学研究科・南山幸子教授による講演が行われました。当日は約100名のみなさまに受講いただきました。南山教授からは、日本における認知症、アレルギー、不妊患者の推移や、生活習慣病・老化促進の要因、また、ヘルシーエイジングのための食事法などについての解説があり、現代社会において、元気で長生きするための食生活を学ぶ機会となり

リエゾンオフィスからのお知らせ

「技術指導」という形の社会貢献

企業や行政から技術指導やコンサルティングなどの依頼があった場合、兼業届けを出して報酬を受け取る教員が多いですが、この場合には、双方の秘密保持や知的財産に関する取り決めがないなど、万一の時の不安材料があります。

リエゾンオフィスでは、守秘や知的財産について契約に定めた上で、兼業届けの不要な（教員の本務の範囲で行う）「技術指導」「学術指導」などのサポートを行っております。また、教員と企業、双方の間に立っての調整も行いますので、お気軽にご相談ください。

COC＋だより

平成30年度「地域創生フィールド演習」に参加した学生のレポートをご紹介します。
学生は南丹市美山町“ニシオサプライズ株式会社”での演習に3名が参加
地(知)の案内人・西尾晴夫さんにお世話になりました。

『私は以前から、文化財の価値や良さなどを多くの人に知ってもらうためには、文化財に負担がかからない範囲で適切に活用していくことが必要だと感じていた。ニシオサプライズでは、まさにその思い描いていたことを実践しておられ、今回の演習で茅葺民家一棟貸しの現場をのぞかせてもらうことで、持続可能な文化財保護のあり方の一例を見ることができ、とても貴重な機会となった。

また、会社の方針も、社長自身が今までの苦労を踏まえて、職人さんが一年を通して安定した職を得られるようにという考えで経営されていた。伝統技術を継ぐ職人の育成という面でも、今後は労働形態をふまえて考えていく必要があるのだと認識した。

現在私は、文化財の活用の方法に興味があるため、この機会は本当にありがたいものであったが、しかしながら具体的に文化財を使って何をしたいのか、ということはまだ思い描けていなかった。どうしたら文化財のために、また地域のためになるのかという予想図を西尾社長のように、しっかり自分の中に持ちたいと思った。』(歴史学科3回生)

茅葺屋根の修復現場

地元の鹿肉を使ったおかず